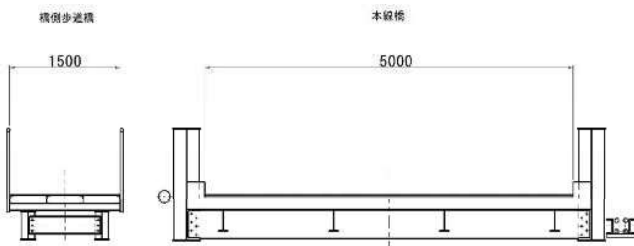
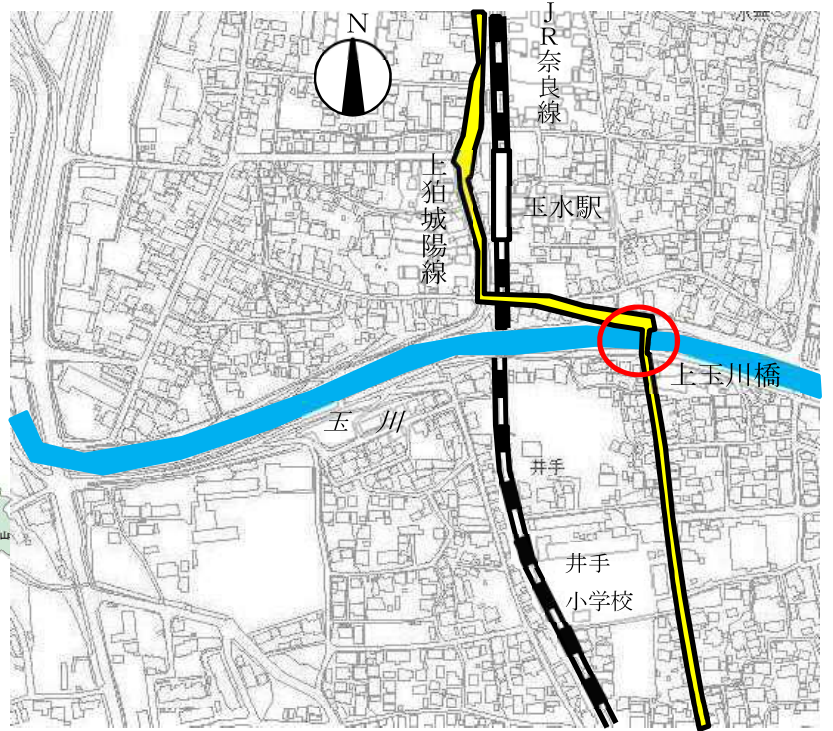


道路事業事前評価調書

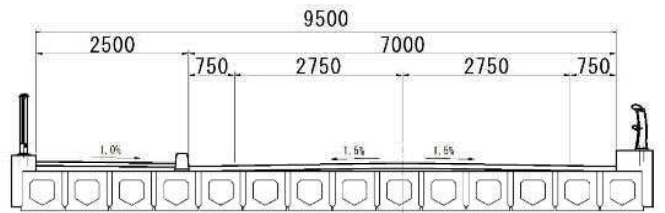
| | | | | | |
|---------|---|--|---------------------------------------|---------|----|
| 路線・河川等名 | 主要地方道 <small>かみこまじょうよう</small> 上狛城陽線 (上玉川橋) <small>かみたまがわ</small> | 事業名 | 防災・安全交付 金事業 | 補助・単独の別 | 補助 |
| 事業主体 | 京都府 | 事業箇所 (区間) | <small>つづきぐんいでちようい</small> 綴喜郡井手町井手地内 | | |
| 事業概要 | 目的 | <p>主要地方道上狛城陽線は、木津川市を起点に井手町を經由して城陽市に至る道路で、木津川右岸地域の南北幹線であるとともに、沿線住民の生活を担う重要な路線である。</p> <p>上玉川橋は、上狛城陽線の J R 玉水駅前から町立井手小学校の間にある昭和29年度完成の延長19mの鋼橋で、前後の道路が改良済みの中で橋梁部のみ1車線となっており、交通安全上危険な状態であるとともに、経年変化により劣化が著しく、早急な対策が必要な状況である。</p> <p>このため、本事業により新たに歩道付きの橋に架け替えることで、円滑な車両交通及び歩行者の安全な通行を確保するものである。</p> | | | |
| | 内容 | <p>整備延長：21m 現況幅員：W＝ 5.0m (本線橋) + 1.5m (側道橋) 計画幅員：W＝ 9.5m 2車線 片側歩道 事業費：約2.0億円</p> | | | |
| | 上位計画等 | 明日の京都 山城地域振興計画 | | | |
| | スケジュール | 着手年度 平成28年度 完成目標 平成30年度 | | | |
| 事業の必要性 | 事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等 | <p>○自動車交通量 3,955台/日 ○自転車交通量 102台/日 ○歩行者交通量 298人/日</p> <p>道路幅員が狭く老朽化しているため、早期の架け替えが求められている。</p> | | | |
| 事業の有効性 | 事業の効果及び費用対便益等 | <p>○車道2車線、歩道付きの橋梁を架けることで、安全で円滑な車両交通を確保する。</p> <p>○橋梁長寿命化修繕計画に基づく老朽橋の架け替えを実施する。</p> | | | |
| 事業の効率性等 | コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全 | <p>○線形改良・道路拡幅により、車両の交通環境が改善する。</p> <p>○路面高を変えない、景観に配慮した高欄等、周囲の景観に違和感のない橋梁とする。</p> | | | |
| 総合評価 | 本事業は安心・安全な通行環境の向上を図るため、新規着手の必要がある。 | | | | |



【広域位置図】



【現況横断面図】



【計画横断面図】



【現況写真】

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

| | | | | | |
|-----------|--|-------|---|---|------|
| | | 作成年月日 | 平成28年4月22日 | | |
| | | 作成部署 | 建設交通部 道路計画課 | | |
| 事業名 | 上粕城陽線 防災・安全交付金事業 | | 地区名 | 綴喜郡井手町井手地内 | |
| 概算事業費 | 約2.0億円 | | 事業期間 | 平成28年度～平成30年度 | |
| 事業概要 | 車道2車線、歩道付きの橋梁に架け替えることで、安全で円滑な交通を確保する。 橋梁架け替え：21m、幅員9.5m | | | | |
| 目指すべき環境像 | 現橋梁は幅員狭小であるため、道路を整備し、安全で円滑な交通を確保する。河川をはじめ、周辺環境に配慮した施工を行う。 | | | | |
| 関連する公共事業 | | | | | |
| | 主要な評価の視点 | 選定要否 | 施行地の環境特性と目標 | 環境配慮・環境創造のための措置内容 | 環境評価 |
| 地球環境・自然環境 | 地球温暖化（CO2排出量等） | ○ | 道路幅員が狭く、車両の速度低下が発生することから、CO ₂ 排出量を削減する必要がある。 河川をはじめ周辺環境に配慮した工事を実施する必要がある。 | 現道拡幅することにより、円滑な通行環境を確保し、CO ₂ 排出量の削減を図る。 工事中は濁水などが周辺に流出しないように実施する。 | 4 |
| | 地形・地質 | | | | |
| | 物理循環（土砂移動） | | | | |
| | 野生生物・絶滅危惧種 | | | | |
| | 生態系 | ○ | | | 3 |
| | その他 | | | | |
| 生活環境 | ユニバーサルデザイン | | 事業実施により発生する建設発生土、資源の再利用に努める必要がある。 | 現在の橋が鋼製であり、スクラップ等により適切に処理する。 | |
| | 水環境・水循環 | | | | |
| | 大気環境 | | | | |
| | 土壌・地盤環境 | | | | |
| | 騒音・振動 | | | | |
| | 廃棄物・リサイクル | ○ | | | 3 |
| | 科学物質・粉じん等 | | | | |
| | 電磁波・電波・日照 | | | | |
| | その他 | | | | |
| 地域個性・文化環境 | 景観 | ○ | 桜や山吹の名所である玉川堤に架かる橋であり、景観を保全する必要がある。 明治時代より井手町井堤保勝会による美化活動が続けられている。 | 路面高を変えない、景観に配慮した高欄等、周囲の景観に違和感のない橋梁とする。 架け替え事業施工中について井手町さくらまつりへの配慮等、活動を妨げない努力をする。 | 3 |
| | 里山の保全 | | | | |
| | 地域文化財の保全 | | | | |
| | 伝統的行事 | | | | |
| | 地域住民との協働 | ○ | | | 3 |
| | その他 | | | | |
| 外部評価 | | | | | |